

ウミホタル観察講座 (三豊市会場)

開催しました！



- 日時 令和4年7月24日（日）19：00～21：00
- 会場 須田自治会館、須田港（三豊市詫間町詫間）
- 講師 塩田 浩之 氏（香川県立三木高等学校校長）

7月24日（日）に、三豊市詫間町詫間の須田自治会館及び須田港にて、「ウミホタル観察講座」を開催し、20名が受講しました。

はじめに、講師よりウミホタルについての説明がありました。ウミホタルはミジンコに似た小さな生き物で、水の綺麗な場所に生息しており、死んだ魚などを食べることから「海のそうじ屋」と呼ばれているというお話がありました。一時期、海の水質が悪化し、ウミホタルを観察することが難しくなっていました。近年では瀬戸内海のいろいろな場所でも観察ができるようになってきたそうです。「ホタル」と名のつく生物に関するクイズを交えながらの講義に、大人も子供も楽しく学び、理解を深めている様子でした。そして、子供たちはライフジャケットを着用し、海岸へと移動しました。



海岸では、事前に作製したペットボトル製のウミホタル採取装置の中に砂利とエサとなる鯛ちくわと海水を入れ、採集装置の仕上げを行いました。その後、ウミホタルの採集場所である波止場へ移動し、採集装置を海へ投げ入れました。待ち時間には、目の前に広がる星や山についてのお話がありました。採集場所から見える塩生山（はぶやま）の由来は、かつてこの付近で塩田が盛んであったことから名付けられたというお話に、受講者は聞き入っていました。



投げ入れてから15分ほど経った後、採集装置を引き上げました。採集装置の海水をバットへ勢いよく移すと、ウミホタルが青白く光りはじめ、幻想的な光景に受講者から歓声が上がりました。講師より、ウミホタルは刺激を受けると口から液体を吐き出し、海水に含まれる酸素と反応して青白く光ると説明がありました。受講者は、懐中電灯でバットを照らして泳いでいる様子を観察したり、子供たちは手のひらにのせたりして、ウミホタルの発光現象を観察しました。

その後、講師よりデモンストレーションがありました。氷水の温度刺激を利用したウミホタルのカクテル、振動の刺激を利用したウミホタルのじゅうたんなどを披露していただきました。採集したウミホタルは、観察後に海へ返しました。



最後に、調査シートを参考にウミホタルが他の海岸でも観察できるかどうか各自で調査し、報告してほしいと説明がありました。

ウミホタルの幻想的な青い光が楽しめる海であり続けるために、参加した受講者が「豊かな海づくり」について考えるきっかけとなる講座となりました。